

科目名	社会心理学 I			科目コード	SC218	
英 文 名	Social Psychology I			科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(必修)	
担当教員	原島 雅之		教員コード	142	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日/1時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	本教科では社会心理学の基礎について取り上げる。個としての人間がどのようにして社会性を形成するか、またどのようにして自己や社会と関わっていくのかについて、様々な研究例をもとに紹介していく。					
授業の狙い・到達目標	自己や他者の捉え方における社会的性質、他者に対する行動や集団などにまつわる様々な現象から、社会的動物としての人間のありようを理解することができる。					
授業内容のレベル・関連科目	心理学基礎(心理学概論 I)を履修した後の、やや専門的な応用レベルの授業となる。					
授業外学習(予習・復習)	配布資料について事前に目を通したり、各回のトピックについて自分で調べるなどして授業に臨むこと。復習としては、授業内容と自分の日常生活との関わりについて考え、課題の提出に備えること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特に使用しない。毎回の授業の際に資料を配布する。					
参考書・その他教材	授業の際に適宜紹介あるいは配布を行う。					
課題に対するフィードバック	提出してもらった課題等についてのフィードバックは各回の授業において適宜行う。					
成績評価方法	定期試験(70%)、課題提出など(30%)によって総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。日常生活における自分や身の回りの他者の心のはたらきに関心を持つことが求められる。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	harashima@aikoku-u.org					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー社会心理学とは シラバスを読み、授業の概要等について確認しておくこと 授業の目的や内容について自分なりに整理し、その後の学習の心構えを作っておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	人間の社会性ー社会的性質と対人関係 人間の社会的性質や対人関係の特徴について自らの経験などをもとに考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
3 回	学習内容 予習 復習	社会的認知①ー印象形成と対人認知 身の回りの様々な人について自分がどのようなイメージを持っているか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
4 回	学習内容 予習 復習	社会的認知②ー帰属と社会的推論 うまくいったときと失敗したときの出来事を思い出し、その原因について考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
5 回	学習内容 予習 復習	態度ー認知的不協和と態度変容 自分が好き(嫌い)なもの、賛成(反対)だと考えることなどについてその理由を考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
6 回	学習内容 予習 復習	感情ー感情の要素と機能 人間の感情(怒り、悲しみ、喜びなど)がどのようなことに役立っているか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
7 回	学習内容 予習 復習	自己①ー自己概念と自己知識 自分自身についてどのようなイメージを持っているかについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
8 回	学習内容 予習 復習	自己②ー自尊心とアイデンティティ 自分の好きなどところや嫌いなどところなどについてその理由と合わせて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
9 回	学習内容 予習 復習	対人関係①ーコミュニケーションと対人魅力 どのような理由によって人同士が仲良くなるのか自分の経験などをふまえて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
10 回	学習内容 予習 復習	対人関係②ー援助行動と攻撃行動 困っている人を助ける理由について自分の経験などをふまえて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
11 回	学習内容 予習 復習	集団①ーグループダイナミクスと社会的ジレンマ 人が集団をつくることのメリット・デメリットについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
12 回	学習内容 予習 復習	集団②ーリーダーシップの機能 理想の上司やリーダーにはどのような特徴や能力が求められるか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
13 回	学習内容 予習 復習	集団③ー世論とマスメディア テレビやインターネットが人々の意見にどのような影響を与えるかについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
14 回	学習内容 予習 復習	文化ー集団主義と個人主義 様々な国の文化の違いについて自分なりに調べておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
15 回	学習内容 予習 復習	まとめー社会における心のはたらき ここまでの学習内容を振り返り、自分なりに整理しておくこと 社会における心のはたらきとはどのようなものかについて考えること

科目名	社会心理学Ⅱ				科目コード	SA210	
英 文 名	Social Psychology Ⅱ				科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	原島 雅之			教員コード	142	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	火曜日/1時限		授業形態	講義	
学位授与方針 との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
		3.論理的・批判的なものの見方を養う	◎	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	近年、社会心理学においては目標達成に関する研究が大きな注目を集め、数多くの研究知見が得られている。本教科では、そのような知見をもとに、どのように目標を立て実行すべきか、また、他者のモチベーションをどのように引き出したらよいかについて考える。						
授業の狙い・ 到達目標	目標の設定や追求に関する心理学的研究について学び、自分や他者のモチベーションを高め、適した方略を用いて遂行するやり方を身につけることができる。						
授業内容の レベル・関連科目	心理学基礎(心理学概論Ⅰ)を履修した後の、やや専門的な応用レベルの授業となる。						
授業外学習 (予習・復習)	配布資料について事前に目を通したり、各回のトピックについて自分で調べるなどして授業に臨むこと。復習としては、授業内容と自分の日常生活との関わりについて考え、課題の提出に備えること。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	特に使用しない。毎回の授業の際に資料を配布する。						
参考書・ その他教材	ハルバーソン H. G. 児島修(訳)『やっつけのけるー意志力を使わずに自分を動かす』 大和書房						
課題に対する フィードバック	提出してもらった課題等についてのフィードバックは各回の授業において適宜行う。						
成績評価方法	定期試験(70%)、課題提出など(30%)によって総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の 注意事項や 学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。日常生活における自分や身の回りの他者の心のはたらきに関心を持つことが求められる。						
科目に関連した 教員の実務経験	特になし						
担当教員への 連絡方法	harashima@aikoku-u.org						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー目標達成の心理学 シラバスを読み、授業の概要等について確認しておくこと 授業の目的や内容について自分なりに整理し、その後の学習の心構えを作っておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	目標の設定①ー目標設定理論、行動の同定 自分自身の今の「目標」について考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
3 回	学習内容 予習 復習	目標の設定②ー暗黙の知能観、目標プライミング 人の知能や性格は変えられるかどうかについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
4 回	学習内容 予習 復習	目標追求のタイプ①ー「獲得型」と「防御型」 配布した質問紙に回答し集計を行い自分のタイプがどちらかを把握しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
5 回	学習内容 予習 復習	目標追求のタイプ②ー「証明型」と「習得型」 配布した質問紙に回答し集計を行い自分のタイプがどちらかを把握しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
6 回	学習内容 予習 復習	目標達成と満足感ー基本的欲求、内発的動機づけと外発的動機づけ 自分の目標を目指す「理由」は何なのかについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
7 回	学習内容 予習 復習	目標の選択ー目標追求のタイプと適した目標設定 ここまでの学習内容を振り返り、自分なりに整理しておくこと 自身に適した目標の立て方を踏まえて自分の今の目標をあらためて捉え直すこと
8 回	学習内容 予習 復習	他者への目標設定ー選択の感覚、フレーミングと目標伝染 人からどのようなことを言われたときにやる気が出た、やる気を失ったかを考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
9 回	学習内容 予習 復習	「誘惑」への対処ー誘惑と目標葛藤、セルフコントロール 目標追求を妨げる「誘惑」に負けないようにするにはどうしたらよいか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
10 回	学習内容 予習 復習	目標追求の計画ー効果的な計画、実行意図の形成 自分の現在の目標を達成するための「計画」について考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
11 回	学習内容 予習 復習	自己制御ー自己制御資源と自我枯渇 誘惑に負けてしまうときや我慢ができないときはどんなときか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
12 回	学習内容 予習 復習	楽観主義ー現実的な楽観主義と非現実的な楽観主義 現実的な楽観主義と非現実的な楽観主義の違いについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
13 回	学習内容 予習 復習	長期的な目標追求ー目標をあきらめるときと粘るとき どのようなときに目標追求をあきらめたほうがよいのか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
14 回	学習内容 予習 復習	他者へのフィードバックー心理学的に正しい「ほめ方」 どのような「ほめ方」が他者のやる気を高めるかについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
15 回	学習内容 予習 復習	まとめー「目標」に向けてがんばるということ ここまでの学習内容を振り返り自分なりに整理しておくこと 自分の「目標」について今後どのように取り組めばよいかと考えること

科目名	教育心理学			科目コード	SC219	
英 文 名	Educational Psychology			科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	中村 博子		教員コード	162	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・1時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	こどもたちが知識や社会性を主に身に着けていく場である学校において、発達段階に応じて主体的で深い学習活動を支える理論や実践方法を学ぶ。また、現代のこどもが抱える問題の社会的背景や、不適応を示すこどもの理解と対応などについても学ぶ。					
授業の狙い・ 到達目標	こどもの発達や学習および学校における諸問題への理解が深まり、対応と支援に関する基礎的な知識を身に付けることができる。また、「自らが学ぶ姿勢」や「人にものを教える工夫」のヒントを得ることができる。					
授業内容の レベル・関連科目	本学の心理学系科目をすべて履修し、卒業研究として心理学を選択すると、認定心理士(日本心理学会)の取得資格を得ることができる。					
授業外学習 (予習・復習)	配布資料と授業中にとったメモを、改めてノートにまとめることを推奨する。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	指定しない。毎回資料を配布する。					
参考書・ その他教材	鎌原 雅彦(著)竹綱 誠一郎(著)「やさしい教育心理学 第5版」 有斐閣アルマ 市川伸一(著)「学習と教育の心理学 増補版」 岩波書店					
課題に対する フィードバック	授業で課した小レポートについては添削の上返却し、授業で全体の講評を行う。					
成績評価方法	期末試験(60%)、レポート・授業内の課題(20%)、授業への貢献度(20%)で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	現代の学校を取り巻く諸問題について、日常から意識をしてニュース等を収集し、自分なりの意見を整理する習慣をもつことが求められる。					
科目に関連した 教員の実務経験	地方公務員として児童相談所に勤務(経験)。スクールカウンセラーとしての臨床勤務(経験)。					
担当教員への 連絡方法	授業前後での質問、メールでの質問(hnakamura@aikoku-u.org)を受け付ける。 メールでの問合せは、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション。現代の学校教育の課題について知る。教育心理学の紹介 学校やこどもに関するニュースを集めておく シラバスをしっかりと読み直しておく。
2 回	学習内容 予習 復習	発達段階と発達課題～遺伝か環境か、発達課題は何かについて学ぶ エリクソンの発達段階説を調べておく ポイントをノートにまとめ直す。
3 回	学習内容 予習 復習	適応とは何か。教育相談や障害について理解する 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
4 回	学習内容 予習 復習	親子関係や仲間関係などの対人関係の発達について理解する 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
5 回	学習内容 予習 復習	幼児期・児童期・青年期の心理的問題について理解する 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
6 回	学習内容 予習 復習	学習理論や記憶、動機づけについて学ぶ 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
7 回	学習内容 予習 復習	学習のまとめ これまでの学習で疑問点を整理しておく ポイントをノートにまとめ直す。
8 回	学習内容 予習 復習	学級集団の特徴や学級の対人関係、社会性について学ぶ 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
9 回	学習内容 予習 復習	パーソナリティの理解と測定について学ぶ 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。授業で与えられた課題をこなす。
10 回	学習内容 予習 復習	知能の発達、様々な知能観、測定方法、測定結果の利用について学ぶ 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
11 回	学習内容 予習 復習	不適応を示すこどもへの理解と対応について学ぶ。～不登校、いじめ、非行 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
12 回	学習内容 予習 復習	不適応を示すこどもへの理解と対応について学ぶ～発達障害の理解と対応 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
13 回	学習内容 予習 復習	スクールカウンセラーの活用の実際について知る(担当教員のSC実務経験に基づく授業) 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
14 回	学習内容 予習 復習	教育の現場の虐待問題への対応の実態と課題(担当教員の児童相談所の実務経験に基づく授業) 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめと復習 どのような教育者・養育者を目指すか考える これまでまとめたノートをよく見直しておく。 試験の準備をする。

科目名	性格心理学			科目コード	SC220	
英 文 名	Personality Psychology			科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	原島 雅之		教員コード	142	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日/2時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	「性格」ということばは日常の様々な場面で用いられ、多くの人が関心を持っているが、性格がそもそもどういうものを説明することはなかなか難しい。本講義では心理学においてこれまで性格がどのように捉えられ、扱われてきたのか、その理論や方法論などを紹介していく。					
授業の狙い・到達目標	心理学における性格に関する考え方、測定の方法などを知ることを通して、自分や他者の性格についての理解を深めることができる。					
授業内容のレベル・関連科目	心理学基礎(心理学概論Ⅰ)を履修した後の、やや専門的な応用レベルの授業となる。					
授業外学習(予習・復習)	配布資料について事前に目を通したり、各回のトピックについて自分で調べるなどして授業に臨むこと。復習としては、授業内容と自分の日常生活との関わりについて考え、課題の提出に備えること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特に使用しない。毎回の授業の際に資料を配布する。					
参考書・その他教材	鈴木公啓(編)『パーソナリティ心理学概論－性格理解への扉－』ナカニシヤ出版					
課題に対するフィードバック	提出してもらった課題等についてのフィードバックは各回の授業において適宜行う。					
成績評価方法	定期試験(70%)、課題提出など(30%)によって総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。日常生活における自分や身の回りの他者の心のはたらきに関心を持つことが求められる。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	harashima@aikoku-u.org					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー性格心理学とは シラバスを読み、授業の概要等について確認しておくこと 授業の目的や内容について自分なりに整理し、その後の学習の心構えを作っておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	性格の理論①ー特性論と類型論 自分や身の回りの人の性格の特徴やタイプについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
3 回	学習内容 予習 復習	性格の理論②ー状況論と相互作用論 様々な場面における自分の行動の特徴やパターンについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
4 回	学習内容 予習 復習	性格の測定①ー観察と面接、作業検査 人の性格を測る際に何を「観察」すればよいか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
5 回	学習内容 予習 復習	性格の測定②ー質問紙と信頼性・妥当性の問題 人の性格を測る際にどのような「質問」をすればよいか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
6 回	学習内容 予習 復習	性格の遺伝ー行動遺伝学と双生児研究 性格は親から遺伝するか、それを調べるにはどうすればよいか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
7 回	学習内容 予習 復習	性格の発達①ー青年期までの発達 生まれてから大人になるまで性格はどのように発達していくか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
8 回	学習内容 予習 復習	性格の発達②ー成人期以降の発達 大人になってから性格は変わるかどうか、またその理由について考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
9 回	学習内容 予習 復習	性格と対人関係①ー学校や友人関係 学校や友人関係は性格にどのような影響を与えるか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
10 回	学習内容 予習 復習	性格と対人関係②ー家族や親密な関係 家族や親密な関係(恋人など)は性格にどのような影響を与えるか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
11 回	学習内容 予習 復習	さまざまな個人差①ー社会的認知における個人差 他者や対人関係、社会などの捉え方にはどのような個人差があるか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
12 回	学習内容 予習 復習	さまざまな個人差②ー感情経験における個人差 感情(喜びや悲しみ、怒りなど)の経験における個人差について考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
13 回	学習内容 予習 復習	性格の病理ー正常と異常、障害と病理 性格の「異常」や「病気」とはどのような状態を表すのかについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
14 回	学習内容 予習 復習	性格の背景ー文化と進化 文化の違いは性格にどのような影響を与えるかについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
15 回	学習内容 予習 復習	まとめー「性格」とは何か ここまでの学習内容を振り返り、自分なりに整理しておくこと 人や自分の「性格」とはどのようなものかについて考えること

科目名	発達心理学			科目コード	SC221	
英 文 名	Developmental Psychology			科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	中村 博子		教員コード	162	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・2時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	人間の生涯を通じて、胎児期から老年期にわたる各時期における発達の特徴について理解を深めながら、自分と他者・社会の関係における自己の発達について考える。また、「虐待」「発達障害」等の発達にかかわる社会的課題については、実際の事例を交えながら詳しく紹介していく。					
授業の狙い・ 到達目標	生涯発達という考え方を理解し、乳幼児期～老年期それぞれにおける発達の特徴およびその個人差について学ぶ。自らの今後のライフプランを生涯発達の視点で考え、アウトプットすることができる。					
授業内容の レベル・関連科目	心理学基礎(心理学概論Ⅰ)を履修した後の、やや専門的な応用レベルの授業となる。					
授業外学習 (予習・復習)	配布資料について事前に目を通したり、各回のトピックについて自分で調べるなどして授業に臨むこと。復習としては、授業内容と自分の日常生活との関わりについて考え、課題の提出に備えること				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特に使用しない。毎回の授業の際に資料を配布する。					
参考書・ その他教材	坂上裕子・山口智子・林創・中間玲子(著)「問いからはじめる発達心理学 生涯にわたる育ちの科学」 有斐閣ストゥディア 二宮克美・大野木裕明・宮沢秀次(編)「ガイドライン 生涯発達心理学」 ナカニシヤ出版					
課題に対する フィードバック	授業内のディスカッションやシートを利用してフィードバックを行う。 また、最終講義でグループワークのフィードバックを行う					
成績評価方法	定期試験(60%)、課題提出(20%)、授業への取り組み姿勢(20%)によって総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。日常生活における自分や身の回りの他者の心のはたらきに関心を持つことが求められる。					
科目に関連した 教員の実務経験	地方公務員として児童相談所に勤務(経験)。カウンセラーとしての臨床勤務(経験)。					
担当教員への 連絡方法	授業前後での質問、メールでの質問(hnakamura@aikoku-u.org)を受け付ける。 メールでの問合せは、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー生涯発達の考え方 シラバスを読み、授業の概要等について確認しておくこと 授業の目的や内容について自分なりに整理し、その後の学習の心構えを作っておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	発達するとはどういうことかについて学ぶ 前回の内容と自分自身のこれまでの経験を振り返りつつ「発達」について考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
3 回	学習内容 予習 復習	生命の芽生えから誕生までに何が起きているかを知る 自分の生まれる前、生まれた時の様子など可能な範囲で調べておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
4 回	学習内容 予習 復習	赤ちゃんがとらえる世界について学ぶ～見て、触って、感じる ピアジェの発達段階理論について調べておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
5 回	学習内容 予習 復習	コミュニケーションと人間関係の発達について学ぶ 乳児の写真、動画を見て、目が合った時・泣いた時・笑った時、どうしようと思うかについて考えておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
6 回	学習内容 予習 復習	言葉と遊びの発達について学ぶ 配布資料を熟読しておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
7 回	学習内容 予習 復習	これまでの講義のまとめ これまでの講義の疑問点をまとめておくこと 乳幼児期を中心に、ひとがどのように認知を身に付けていくかについて整理する
8 回	学習内容 予習 復習	関わりの中での育ちを学ぶ 自分が初めて人の気持ちを考えた時、うそをついた時、何歳ごろだったか思い出してまとめておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
9 回	学習内容 予習 復習	学校での学び、育ちを知る ピアジェの発達段階理論における15歳までの段階特徴を調べておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
10 回	学習内容 予習 復習	こどもをめぐる問題～虐待について学ぶ(担当教員の児童相談所の実務経験に基づく授業) 虐待に関するニュースを3つ集め、共通する要因について考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
11 回	学習内容 予習 復習	発達におけるつまずきをどう理解し支えるかを考える～発達障害について 発達障害の種類や特徴について調べておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
12 回	学習内容 予習 復習	青年期の発達の变化について学び、考える 友達と親友の違いは何か。こどものころはどうだったか。考えをまとめておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
13 回	学習内容 予習 復習	成人期の始まりの課題について学ぶ 自分はこども・青年・大人のどれに属すると思うか。その理由を考えてくること 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
14 回	学習内容 予習 復習	老いるとはどういうことかを考える 高齢者になると心理的にどのような変化が起きるのかについて調べ、考えをまとめておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
15 回	学習内容 予習 復習	発達の視点を含んだ今後のライフプランについてまとめ、発表する。 講義で学んだことを踏まえて自分なりの考えをまとめておく 他者の発表を聞いてより豊かなプランを考える。試験に備える。

科目名	臨床心理学			科目コード	SA211	
英 文 名	Clinical Psychology			科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	中村 博子		教員コード	162	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・2時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う	◎	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	臨床心理学は、人の心の悩みや葛藤について理解し、援助を行う実践的な学問である。臨床心理学の位置づけ、定義、概念、心理機制、対象疾患等について学び、心理検査、心理療法を中心に臨床場面での心理学の手法について実践的に学習する。					
授業の狙い・ 到達目標	臨床心理学の理論的背景について理解し、心理(精神)療法の各種技法について対象別に区別することができる。アセスメントやカウンセリングの基本的姿勢を理解し、生活に活かすことができる。					
授業内容の レベル・関連科目	心理学基礎(心理学概論Ⅰ)を履修した後の、やや専門的な応用レベルの授業となる。					
授業外学習 (予習・復習)	配布資料について事前に目を通したり、各回のトピックについて自分で調べるなどして授業に臨むこと。復習としては、授業内容と自分の日常生活との関わりについて考え、課題の提出に備えること				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特に使用しない。毎回の授業の際に資料を配布する。					
参考書・ その他教材	杉浦京子(著)「臨床心理学講義 実習を通して学ぶ」 朱鷺書房 丹野義彦・坂本真士(著)「自分のところからよむ臨床心理学入門」 東京大学出版会					
課題に対する フィードバック	演習や課題等についてのフィードバックは各回の授業において適宜行う。					
成績評価方法	定期試験(50%)、授業への取り組み姿勢(30%)、課題提出(20%)、によって総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。日常生活における自分や身の回りの他者の心のはたらきに関心を持つことが求められる					
科目に関連した 教員の実務経験	地方公務員として児童相談所に勤務(経験)。カウンセラーとしての臨床勤務(経験)。					
担当教員への 連絡方法	授業前後での質問、メールでの質問(hnakamura@aikoku-u.org)を受け付ける。 メールでの問合せは、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 臨床心理学とは何か。心はどこにあるのかについて考える シラバスを読み、授業の概要等について確認しておくこと 授業の目的や内容について自分なりに整理し、その後の学習の心構えを作っておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	臨床心理学の成り立ちと概観について学ぶ 臨床心理学で学びたいことを考えておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
3 回	学習内容 予習 復習	臨床心理学の基本的な理論について学ぶ～カウンセリング、傾聴について実践 カウンセリングとは何か、話をさくということとはどのようなことか考えておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
4 回	学習内容 予習 復習	臨床心理学の代表的な理論について学ぶ～カウンセラーの基本的態度、ラポールについて カール・ロジャースについて調べておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
5 回	学習内容 予習 復習	エリクソンのライフサイクル理論について学ぶ。発達について理解する エリクソンについて調べておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
6 回	学習内容 予習 復習	フロイトの理論について学ぶ。ストレスと防衛機制について学ぶ フロイトについて調べておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
7 回	学習内容 予習 復習	学習のまとめ ここまでの学習内容を踏まえ、疑問点をまとめておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
8 回	学習内容 予習 復習	こころの健康とは何か～事例を通して考える こころの健康について、自分なりの考えをまとめておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
9 回	学習内容 予習 復習	主な精神疾患について学ぶ 代表的な精神疾患について症状を調べておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
10 回	学習内容 予習 復習	自死のサイン、対応について考える ニュースや資料などを確認しておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
11 回	学習内容 予習 復習	心理検査の実施 体験と解説(担当教員の児童相談所の実務経験に基づく授業) 自分の性格、特性などを考えておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
12 回	学習内容 予習 復習	心理的援助の方法①ーカウンセリング(担当教員のカウンセラーの実務経験に基づく授業) 心の問題を解決する方法としてのカウンセリングについて自分なりに調べておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
13 回	学習内容 予習 復習	心理的援助の方法②ークライエント中心療法 前回の内容をふまえ、効果的なカウンセリングについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
14 回	学習内容 予習 復習	心理的援助の方法③ー認知行動療法(担当教員のカウンセラーの実務経験に基づく授業) 「認知のゆがみ」について復習し、それをどのように修正したらよいか自分なりに考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
15 回	学習内容 予習 復習	心理的援助のまとめと心のスキルアップ 心理的援助の方法について振り返り、日常生活で個人が応用できる例を考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと

科 目 名	産業心理学			科目コード	SA212	
英 文 名	Industrial Psychology			科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	中村 博子		教員コード	162	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日・1時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する	◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	産業心理学は、産業活動に関わる諸問題に対する心理学的な取り組みについて学ぶ。組織行動(モチベーションやリーダーシップ、意思決定など)と、人的資源管理(人事評価やキャリア問題)、安全衛生(ストレス・制度や法律)の3視点から、特にメンタルヘルスを重点的かつ実践的に学んでいく。アルバイトや今後の進路選択・就職活動に活かせる内容である。					
授業の狙い・ 到達目標	将来、特に仕事をしていく中で生じる自身のストレスの状態を把握し、不調が生じた場合は早期にそれに気づき、適切な対処を行うことができるようになる。また、様々な産業活動における心理学の知見を理解し、自らの社会生活に活かすことができる。					
授業内容の レベル・関連科目	心理学基礎(心理学概論Ⅰ)を履修した後の、やや専門的な応用レベルの授業となる。					
授業外学習 (予習・復習)	配布資料について事前に目を通したり、各回のトピックについて自分で調べるなどして授業に臨むこと。復習としては、授業内容と自分の日常生活との関わりについて考え、課題の提出に備えること。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特に使用しない。毎回の授業の際に資料を配布する。					
参考書・ その他教材	山口裕幸・他(著)「経営とワークライフに生かそう!産業・組織心理学」 有斐閣アルマ 渡辺三枝子(編著)「キャリアの心理学」 ナカニシヤ出版					
課題に対する フィードバック	演習や課題等についてのフィードバックは各回の授業において適宜行う。					
成績評価方法	定期試験(70%)、演習等授業への取り組み姿勢(30%)によって総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。アルバイト先やニュースなどで、働く人々にとって現在どのようなことが問題になっているかについて積極的に知る姿勢が求められる。					
科目に関連した 教員の実務経験	地方公務員として児童相談所の所属長としての勤務(経験)。リワークカウンセラーとしての臨床勤務(経験)。					
担当教員への 連絡方法	授業前後での質問、メールでの質問(hnakamura@aikoku-u.org)を受け付ける。 メールでの問合せは、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

授業スケジュール

産業心理学

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 産業心理学とは何かについて考える シラバスを読み、授業の概要等について確認しておくこと 授業の目的や内容について自分なりに整理し、その後の学習の心構えを作っておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	働くということについて考える～働くという気持ちとワーク・モチベーション 自分にとって働くということの意味について考えておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
3 回	学習内容 予習 復習	職場のコミュニケーションについて考える～組織内外のコミュニケーションやチームワークについて アルバイト経験などを踏まえ、職場でのコミュニケーションの成功・失敗例について考えておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
4 回	学習内容 予習 復習	良いリーダーとは～リーダーシップについて考える 良いリーダーとはどのような特徴がある人かについて考えておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
5 回	学習内容 予習 復習	意思決定の困難さ～集団意思決定の演習を通して学ぶ 意思決定について、自分1人で行う時と、大勢で行う時の違いについて考えておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
6 回	学習内容 予習 復習	採用と人事について学ぶ～人事評価や適性など(担当教員の管理職経験に基づく授業) 配布した資料について目を通しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
7 回	学習内容 予習 復習	これまでの学習のまとめ これまでの学習での疑問点をまとめておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
8 回	学習内容 予習 復習	多様化する雇用とキャリア形成について学ぶ～キャリア発達、ワークライフバランス どのような雇用形態があるか、その種類と課題を調べておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
9 回	学習内容 予習 復習	自分のキャリアについて考える～演習 現在までの学習を踏まえ、自分のキャリアプランをイメージしておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
10 回	学習内容 予習 復習	安全に働くということ～作業効率や職場の快適性、ヒューマンエラーへの対応 作業効率が向上した時と、エラーが頻出した時の経験を思い出し整理しておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
11 回	学習内容 予習 復習	働くことに伴うストレス～職場のメンタルヘルスの問題や対策 アルバイト経験などを踏まえ、職場で起きやすいストレスについて考えておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
12 回	学習内容 予習 復習	感情労働職のストレスについて(担当教員のリワークカウンセラーの実務経験に基づく授業) 対人の職業におけるストレスについて、体験やインタビュー等から具体例を調べておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
13 回	学習内容 予習 復習	ハラスメントの知識と対応策について ハラスメントに関する訴訟事件などを調べておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
14 回	学習内容 予習 復習	産業労働に関する法律について 産業・組織分野に関連する制度や法律について調べておく 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
15 回	学習内容 予習 復習	まとめー産業・組織と心理学の関わり ここまでの学習内容を振り返り、自分なりに整理しておくこと 今後自分が仕事をしていく上で必要だと考える心理学的知識についてまとめておくこと

科目名	色彩心理学			科目コード	SC222	
英 文 名	Color Psychology			科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	佐久間 直人		教員コード	148	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日・2時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	色は、日常で目にする物体の最も基本的な属性の一つであり、極めて身近なものである。しかし、実際には「色とは何か」、「色が見えるとはどういうことか」は一般的には知られていない。本講義では、色の仕組み、色にまつわる心理学的な諸現象の紹介を通して、色と人間の関わりを学ぶ。					
授業の狙い・到達目標	色そのものの性質や色に見える仕組みなどについて理解することができる。 色彩学、色の知覚心理学、色彩デザインの基礎知識を習得することができる。					
授業内容のレベル・関連科目	本学の心理学系科目をすべて履修し、卒業研究として心理学を選択すると、認定心理士(日本心理学会)の取得資格を得ることができる。従って、資格に相応しいレベルは保つつもりである。また、色彩検定UC級と3級(および2級の一部)の資格取得に役立つ内容が扱われる。					
授業外学習(予習・復習)	授業の前と後に、教科書の該当箇所を読んでおく。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	公益社団法人 色彩検定協会 『色彩検定 公式テキスト 3級編 (2020年改訂版)』					
参考書・その他教材	海保博之・日比野治雄・小山慎一(編)『朝倉実践心理学講座3 デザインと色彩の心理学』朝倉書店					
課題に対するフィードバック	授業で課した小レポートについては添削の上返却し、授業で全体の講評を行う。					
成績評価方法	期末試験(70%)、レポート・授業内の課題(20%)、授業への貢献度(10%)で総合的に評価する。					
成績評価基準	到達目標に対して学習がどのくらい進んだかについて、本学の学業成績判定に関する規程の基準に従って評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	講義中の私語は慎むこと。許可を得ずに突然撮影することは禁止する。 カラーの資料をオンラインで提供する予定なので活用してほしい。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	授業の前後に教員に直接声をかけると、最も早い対応が期待できる。 質問はメールでも受け付ける。(sakuma@aikoku-u.org)					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション: 色彩心理学とは何か シラバスをしっかりと読んでおく。 色彩検定についてインターネット等で簡単に調べておく。
2 回	学習内容 予習 復習	色と人間: 色と学問(心理学・光学・人間工学)の関わり 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
3 回	学習内容 予習 復習	色とは何か: 色の正体と色が見える仕組み① 分光分布、分光反射率、錐体過程 教科書の第3章の前半部分について、図を中心に目を通しておく。 教科書の第3章の前半部分の該当箇所を読み直す。
4 回	学習内容 予習 復習	色とは何か: 色の正体と色が見える仕組み② 錐体拮抗課程、混色 教科書の第3章の前半部分について、図を中心に目を通しておく。 教科書の第3章の前半部分の該当箇所を読み直す。
5 回	学習内容 予習 復習	色の表し方: 色を定量的に表す方法(表色系の成り立ち) 教科書の第3章の後半部分について、図を中心に目を通しておく。 教科書の第3章の後半部分を読み直す。
6 回	学習内容 予習 復習	色の見え方: 物理的に定義される色と、人間個人に「見えた色」の違い 色とは何か、表色系とは何かについて、説明できるようにしておく。 教科書の第5章を読み直す。色の錯視の例を日常で探してみる。
7 回	学習内容 予習 復習	ここまでのまとめ: 眼球に光が入ってから色が見えるまで これまでの授業の要点を自分なりにまとめておく。 教科書の第3章を読み、内容が概ね理解できることを確認しておく。
8 回	学習内容 予習 復習	色名と色の分類: 日常的な色の分類の成立と、色名の持つ効果 色の名前を思い浮かんだ順にできるだけ書いてみる。 自分が書き上げた色名やその順序と、授業内容の関係を考えてみる。
9 回	学習内容 予習 復習	色の心理的効果: 網膜の錐体分布から考える「見えている景色」の不思議 色が見える仕組みについて見直しておく。 教科書の第6章について、図を中心に目を通しておく。
10 回	学習内容 予習 復習	色の心理的効果: 色が他の属性に与える影響 教科書の第6章に目を通しておく。 教科書の第6章を読み直す。
11 回	学習内容 予習 復習	色とデザイン: デザインや芸術における色の配置 教科書の第9章、第12章に目を通しておく。 教科書の第9章、第12章を読み直す。
12 回	学習内容 予習 復習	色覚の多様性: 等色実験と色覚検査、錐体の種類による色覚のタイプ 色が見える仕組みについて見直しておく。 錐体特性と色覚のタイプについてまとめる。
13 回	学習内容 予習 復習	色覚の多様性: 遺伝的多様性・疾病等による多様性と色のユニバーサルデザイン 色とは何かと、色覚のタイプについて説明できるようにしておく。 身近なもので「UCのもの」または「UCにすべきもの」を探す。
14 回	学習内容 予習 復習	色とイメージ: 感情やリラクゼーションと色のかかわり、「世間でいう色彩心理学」の問題点 インターネットで「色彩心理学」を検索し、おおまかな印象をまとめる。 心理学と疑似科学をどのように区別すればよいか考える。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめと復習: これまでの授業のポイントを振り返る これまでの要点・重要語をよく見直しておく。 試験の準備をする。

科 目 名	心理学研究法 I				科目コード	SC223	
英 文 名	Psychological Research Methods I				科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	佐久間 直人		教員コード	148		単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針 との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	心理学という学問の、実践的な研究方法を紹介する。代表的な研究手法、データの分析手法を紹介した「心理学研究法」というテキストに沿って授業を進めていく。心理学研究法 I ではテキストの1章から7章にある、データの取得方法までをとりあげる。						
授業の狙い・ 到達目標	人間の行動とその心的過程を研究する方法(主にデータの取り方)を習得することができる。						
授業内容の レベル・関連科目	心理学で卒業研究をする予定の学生は4年生になる前までに履修することが望ましい。また、この授業で学ぶ内容は、心理学実験実習 I、II で実践することができる。 逆に、心理学の卒業研究や実験実習に興味のない者にはおすすりできない専門的な内容である。						
授業外学習 (予習・復習)	授業の前と後に、教科書の該当箇所を読んでおく。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	大山正・岩脇三良・宮埜壽夫 『心理学研究法 データ収集・分析から論文作成まで』 サイエンス社						
参考書・ その他教材	特になし						
課題に対する フィードバック	授業で課した小レポートについては添削の上返却し、授業で全体の講評を行う。						
成績評価方法	期末試験(70%)、レポート・授業内の課題(20%)、授業への貢献度(10%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	到達目標に対して学習がどのくらい進んだかについて、本学の学業成績判定に関する規程の基準に従って評価する。						
履修上の 注意事項や 学習上の助言	研究方法に関する専門的な内容を扱うため、心理学の卒業研究や実験実習に興味のない者にはおすすりしない。時間割を埋めるために登録するなどしないように注意願いたい。 私語は厳禁であるが、発言は歓迎する。講義中でも積極的に質問してほしい。						
科目に関連した 教員の実務経験	特になし						
担当教員への 連絡方法	授業の前後に教員に直接声をかけると、最も早い対応が期待できる。 質問はメールでも受け付ける。(sakuma@aikoku-u.org)						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション:心理学とは何か、なぜ研究法が必要か シラバスをしっかりと読んでおく。 資料等を読み直しておく。
2 回	学習内容 予習 復習	心理学研究法の特徴:心理学の研究対象と歴史 教科書の第1章に目を通しておく。 教科書の第1章を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
3 ・ 4 回	学習内容 予習 復習	観察法・面接法・実験法:自然観察、条件を統制した観察と面接による観察のしかた 教科書の第2章に目を通しておく。 教科書の第2章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
5 ・ 6 回	学習内容 予習 復習	質問紙法:質問紙による調査データの収集法 教科書の第3章に目を通しておく。 教科書の第3章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
7 回	学習内容 予習 復習	SD法:イメージの測定、意味空間を調べるSD法の行い方 教科書の第4章に目を通しておく。 教科書の第4章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
8 ・ 9 回	学習内容 予習 復習	反応時間測定法:反応時間の測定方法とその意義 教科書の第5章に目を通しておく。 教科書の第5章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
10 ・ 11 ・ 12 回	学習内容 予習 復習	心理検査法:質問紙法、作業検査法、投影法による個人データの測定方法 教科書の第6章に目を通しておく。 教科書の第6章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
13 ・ 14 回	学習内容 予習 復習	心理物理学的測定法:刺激(物理量)と反応(心理量)の対応を求め、感覚を測る方法 教科書の第7章に目を通しておく。 教科書の第7章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめと復習 これまでの要点と重要語をまとめておく。 試験の準備やレポート執筆をする。

科 目 名	心理学研究法Ⅱ				科目コード	SC224	
英 文 名	Psychological Research Methods Ⅱ				科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	佐久間 直人		教員コード	148		単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	火曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針 との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	心理学という学問の、実践的な研究方法を紹介する。代表的な研究手法、データの分析手法を紹介した「心理学研究法」というテキストに沿って授業を進めていく。心理学研究法Ⅱではテキストの8章から14章にある、データの分析・解析の方法および研究のまとめ方をとりあげる。						
授業の狙い・ 到達目標	心理学研究に用いられるデータ解析法を習得することができる。統計学の基礎を学び、「データによって科学的に示された」とは何を意味するのかを理解することができる。						
授業内容の レベル・関連科目	心理学で卒業研究をする予定の学生は4年生になる前までに履修することが望ましい。また、この授業で学ぶ内容は、心理学実験実習Ⅰ、Ⅱで実践することができる。 逆に、心理学の卒業研究や実験実習に興味のない者にはおすすめてできない専門的な内容である。						
授業外学習 (予習・復習)	授業の前と後に、教科書の該当箇所を読んでおく。					授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	大山正・岩脇三良・宮埜壽夫 「心理学研究法 データ収集・分析から論文作成まで」 サイエンス社						
参考書・ その他教材	特になし						
課題に対する フィードバック	授業で課した小レポートについては添削の上返却し、授業で全体の講評を行う。						
成績評価方法	期末試験(70%)、レポート・授業内の課題(20%)、授業への貢献度(10%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	到達目標に対して学習がどのくらい進んだかについて、本学の学業成績判定に関する規程の基準に従って評価する。						
履修上の 注意事項や 学習上の助言	研究方法に関する専門的な内容を扱うため、心理学の卒業研究や実験実習に興味のない者にはおすすめてしない。時間割を埋めるために登録するなどしないように注意願いたい。 私語は厳禁であるが、発言は歓迎する。講義中でも積極的に質問してほしい。						
科目に関連した 教員の実務経験	特になし						
担当教員への 連絡方法	授業の前後に教員に直接声をかけると、最も早い対応が期待できる。 質問はメールでも受け付ける。(sakuma@aikoku-u.org)						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション:なぜ統計法が必要か、データの散らばりと代表値 シラバスをしっかりと読んでおく。 平均値、標準偏差とはそれぞれ何か、専門的に説明できるようにしておく。
2 回	学習内容 予習 復習	データ解析の基礎:平均、分散、正規分布と標本分布 教科書の第8章に目を通しておく。 教科書の第8章を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
3 回	学習内容 予習 復習	実験計画・検定① 仮説検証の論理と統計的検定のしくみ 教科書の第9章に目を通しておく。 教科書の第9章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
4 回	学習内容 予習 復習	実験計画・検定② 実験計画の作成、代表的な実験計画 教科書の第9章に目を通しておく。 教科書の第9章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
5 回	学習内容 予習 復習	実験計画・検定③ t検定の考え方と方法 教科書の第9章に目を通しておく。 教科書の第9章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
6 回	学習内容 予習 復習	実験計画・検定④ 分散分析の考え方と方法 教科書の第9章に目を通しておく。 教科書の第9章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
7 回	学習内容 予習 復習	実験計画・検定⑤ 2要因以上の分散分析の考え方と方法 教科書の第9章に目を通しておく。 教科書の第9章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
8 回	学習内容 予習 復習	相関と回帰① 相関係数と関係判断の誤り 教科書の第10章に目を通しておく。 教科書の第10章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
9 回	学習内容 予習 復習	相関と回帰② 回帰分析の考え方 教科書の第10章に目を通しておく。 教科書の第10章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
10 回	学習内容 予習 復習	因子分析① 多変量解析・次元分解とは 教科書の第11章に目を通しておく。 教科書の第11章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
11 回	学習内容 予習 復習	因子分析② 主成分分析、因子分析の考え方と意義 教科書の第11章に目を通しておく。 教科書の第11章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
12 回	学習内容 予習 復習	類似性データの分析法: 多次元尺度構成、クラスター分析 教科書の第12章に目を通しておく。 教科書の第12章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
13 回	学習内容 予習 復習	カテゴリーデータの数量化: カテゴリーデータの分析法、数量化の考え方 教科書の第13章に目を通しておく。 教科書の第13章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
14 回	学習内容 予習 復習	研究論文の書き方: 論文執筆の一般的注意、研究論文の構成・内容 教科書の第14章に目を通しておく。 教科書の第14章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめと復習 これまでの要点と重要語をまとめておく。 試験の準備やレポート執筆をする。

科 目 名	心理学実験実習 I			科目コード	SA206	
英 文 名	Psychological Experiments I			科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	原島 雅之／佐久間 直人／ 中村 博子		教員コード	142／148／ 162	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日/2・3時限		授業形態	演習
学位授与方針 との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	心理学の基礎的な実験としてよく知られているものをいくつか取り上げて実施する。実験・観察・調査等の方法について、受講者は実験者および研究対象者(実験参加者、調査協力者等)として参加体験する。毎回の実験についてレポート提出が求められる。なお、授業スケジュールに挙げられている実験内容については受講生の人数や要望などによって変更する可能性もある。					
授業の狙い・ 到達目標	心理学における実験的研究の基礎を修得する。心理学の実験や調査を単に経験するというだけでなく、得られたデータを分析および考察し、レポートにまとめることを通して、心のはたらきを科学的に説明するための知識や技能を身につけることができる。					
授業内容の レベル・関連科目	実験ごとに毎回のレポート提出があるなど心理学系科目のなかではやや難しめレベルとなっている。また心理学研究法Ⅰ・Ⅱは受講しておくこと、もしくは合わせての受講が望ましい。					
授業外学習 (予習・復習)	各回で行う実験については事前にテキストで確認をしておくこと。実験で得られたデータの集計や分析、レポート執筆については授業内の指示に従って各自行うこと。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計120時間
使用教科書	大和田智文・鈴木公啓(編)『心理学基礎実験を学ぶーデータ収集からレポート執筆までー』北樹出版					
参考書・ その他教材	日本心理学会(編)『執筆・投稿の手引き(2015年改訂版)』 都築学(著)『心理学論文の書き方ーおいしい論文のレシピ』有斐閣アルマ					
課題に対する フィードバック	提出された各回のレポートについては添削した上、返却を行い、授業内においても講評等を行う。					
成績評価方法	実習の参加態度(20%)、実験ごとのレポート(80%)で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	実験ごとのレポート提出など負担は大きい、「認定心理士」資格取得や心理学関連の卒業研究には欠かせない授業である。実習を行う都合上、遅刻および欠席は特に厳禁とする。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	原 島の連絡先: harashima@aikoku-u.org 佐久間の連絡先: sakuma@aikoku-u.org 中 村の連絡先: hnakamura@aikoku-u.org					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー実験実習を行うための概要説明・注意事項 テキストの第1章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第1章を見直すこと
2 回	学習内容 予習 復習	レポートの書き方ー心理学実験レポートの書き方の説明 テキストの第18章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第18章を見直すこと
3 ・ 4 回	学習内容 予習 復習	実験1:ミューラー・リヤー錯視①ー実験の背景解説および方法の説明 テキストの第2章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第2章を見直すこと
5 ・ 6 回	学習内容 予習 復習	実験1:ミューラー・リヤー錯視②ー実験の実施 テキストの第2章を読んでおくこと 実験で得られたデータのチェックをしておくこと
7 回	学習内容 予習 復習	実験1:ミューラー・リヤー錯視③ー結果の整理とレポート準備 テキストの第2章を読んでおくこと レポート執筆に必要な準備をしておくこと
8 回	学習内容 予習 復習	実験1:ミューラー・リヤー錯視④ーレポート作成 テキストの第2章を読んでおくこと レポートを作成すること
9 回	学習内容 予習 復習	実験1のレポート講評 自分で書いたレポートを見直しておくこと 講評内容をふまえてレポートの修正を行うこと
10 ・ 11 回	学習内容 予習 復習	実験2:鏡映描写①ー実験の背景解説および方法の説明 テキストの第5章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第2章を見直すこと
12 ・ 13 回	学習内容 予習 復習	実験2:鏡映描写②ー実験の実施 テキストの第5章を読んでおくこと 実験で得られたデータのチェックをしておくこと
14 回	学習内容 予習 復習	実験2:鏡映描写③ー結果の整理とレポート準備 テキストの第5章を読んでおくこと レポート執筆に必要な準備をしておくこと
15 回	学習内容 予習 復習	実験2:鏡映描写④ーレポート作成 テキストの第5章を読んでおくこと レポートを作成すること

16 回	学習内容 予習 復習	実験2のレポート講評 自分で書いたレポートを見直しておくこと 講評内容をふまえてレポートの修正を行うこと
17 ・ 18 回	学習内容 予習 復習	実験3: 系列位置効果①－実験の背景解説および方法の説明 テキストの第7章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第7章を見直すこと
19 ・ 20 回	学習内容 予習 復習	実験3: 系列位置効果②－実験の実施 テキストの第7章を読んでおくこと 実験で得られたデータのチェックをしておくこと
21 回	学習内容 予習 復習	実験3: 系列位置効果③－結果の整理とレポート準備 テキストの第7章を読んでおくこと レポート執筆に必要な準備をしておくこと
22 回	学習内容 予習 復習	実験3: 系列位置効果④－レポート作成 テキストの第7章を読んでおくこと レポートを作成すること
23 回	学習内容 予習 復習	実験3のレポート講評 自分で書いたレポートを見直しておくこと 講評内容をふまえてレポートの修正を行うこと
24 ・ 25 回	学習内容 予習 復習	実験4: 潜在態度①－実験の背景解説および方法の説明 テキストの第16章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第7章を見直すこと
26 ・ 27 回	学習内容 予習 復習	実験4: 潜在態度②－実験の実施 テキストの第16章を読んでおくこと 実験で得られたデータのチェックをしておくこと
28 回	学習内容 予習 復習	実験4: 潜在態度③－結果の整理とレポート準備 テキストの第16章を読んでおくこと レポート執筆に必要な準備をしておくこと
29 回	学習内容 予習 復習	実験4: 潜在態度④－レポート作成 テキストの第16章を読んでおくこと レポートを作成すること
30 回	学習内容 予習 復習	実験4のレポート講評 自分で書いたレポートを見直しておくこと 講評内容をふまえてレポートの修正を行うこと

科 目 名	心理学実験実習Ⅱ			科目コード	SA207	
英 文 名	Psychological Experiments Ⅱ			科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	原島 雅之／佐久間 直人／ 中村 博子		教員コード	142／148／ 162	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	金曜日/2・3時限		授業形態	演習
学位授与方針 との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	心理学実験実習Ⅰとは異なる実験を取り上げて実施する。実験・観察・調査等の方法について、受講者は実験者および研究対象者(実験参加者、調査協力者等)として参加体験する。毎回の実験についてレポート提出が求められる。なお、授業スケジュールに挙げられている実験内容については受講生の人数や要望などによって変更する可能性もある。					
授業の狙い・ 到達目標	授業目的は心理学実験実習Ⅰと同様、基礎的な心理学実験の実習を通して、心理学的な測定方法と評価・分析方法を修得することができる。					
授業内容の レベル・関連科目	実験ごとにレポート提出があるなど心理学系科目のなかではやや難しめレベルとなっている。また心理科学研究法Ⅰ・Ⅱは受講しておくこと、もしくは合わせての受講が望ましい。					
授業外学習 (予習・復習)	各回で行う実験については事前にテキストで確認をしておくこと。実験で得られたデータの集計や分析、レポート執筆については授業内の指示に従って各自行うこと。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計120時間
使用教科書	大和田智文・鈴木公啓(編)『心理学基礎実験を学ぶーデータ収集からレポート執筆までー』北樹出版					
参考書・ その他教材	日本心理学会(編)『執筆・投稿の手引き(2015年改訂版)』 都築学(著)『心理学論文の書き方ーおいしい論文のレシピ』有斐閣アルマ					
課題に対する フィードバック	提出された各回のレポートについては添削した上、返却を行い、授業内においても講評等を行う。					
成績評価方法	実習の参加態度(20%)、実験ごとのレポート(80%)で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	実験ごとのレポート提出など負担は大きい、「認定心理士」資格取得や心理学関連の卒業研究には欠かせない授業である。実習を行う都合上、遅刻および欠席は特に厳禁とする。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	原 島の連絡先: harashima@aikoku-u.org 佐久間の連絡先: sakuma@aikoku-u.org 中 村の連絡先: hnakamura@aikoku-u.org					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー実験実習を行うための概要説明・注意事項 テキストの第1章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第1章を見直すこと
2 回	学習内容 予習 復習	実験データの整理法 テキストの第18章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第18章を見直すこと
3 ・ 4 回	学習内容 予習 復習	実験1: スループ①ー実験の背景解説および方法の説明 テキストの第4章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第2章を見直すこと
5 ・ 6 回	学習内容 予習 復習	実験1: スループ効果②ー実験の実施 テキストの第4章を読んでおくこと 実験で得られたデータのチェックをしておくこと
7 回	学習内容 予習 復習	実験1: スループ効果③ー結果の整理とレポート準備 テキストの第4章を読んでおくこと レポート執筆に必要な準備をしておくこと
8 回	学習内容 予習 復習	実験1: スループ効果④ーレポート作成 テキストの第4章を読んでおくこと レポートを作成すること
9 回	学習内容 予習 復習	実験1のレポート講評 自分で書いたレポートを見直しておくこと 講評内容をふまえてレポートの修正を行うこと
10 ・ 11 回	学習内容 予習 復習	実験2: 透明性錯覚①ー実験の背景解説および方法の説明 テキストの第12章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第2章を見直すこと
12 ・ 13 回	学習内容 予習 復習	実験2: 透明性錯覚②ー実験の実施 テキストの第12章を読んでおくこと 実験で得られたデータのチェックをしておくこと
14 回	学習内容 予習 復習	実験2: 透明性錯覚③ー結果の整理とレポート準備 テキストの第12章を読んでおくこと レポート執筆に必要な準備をしておくこと
15 回	学習内容 予習 復習	実験2: 透明性錯覚④ーレポート作成 テキストの第12章を読んでおくこと レポートを作成すること

16 回	学習内容 予習 復習	実験2のレポート講評 自分で書いたレポートを見直しておくこと 講評内容をふまえてレポートの修正を行うこと
17 ・ 18 回	学習内容 予習 復習	実験3:4枚カード問題①ー実験の背景解説および方法の説明 テキストの第7章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第7章を見直すこと
19 ・ 20 回	学習内容 予習 復習	実験3:4枚カード問題②ー実験の実施 テキストの第7章を読んでおくこと 実験で得られたデータのチェックをしておくこと
21 回	学習内容 予習 復習	実験3:4枚カード問題③ー結果の整理とレポート準備 テキストの第7章を読んでおくこと レポート執筆に必要な準備をしておくこと
22 回	学習内容 予習 復習	実験3:4枚カード問題④ーレポート作成 テキストの第7章を読んでおくこと レポートを作成すること
23 回	学習内容 予習 復習	実験3のレポート講評 自分で書いたレポートを見直しておくこと 講評内容をふまえてレポートの修正を行うこと
24 ・ 25 回	学習内容 予習 復習	実験4:社会的促進と抑制①ー実験の背景解説および方法の説明 テキストの第14章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第7章を見直すこと
26 ・ 27 回	学習内容 予習 復習	実験4:社会的促進と抑制②ー実験の実施 テキストの第14章を読んでおくこと 実験で得られたデータのチェックをしておくこと
28 回	学習内容 予習 復習	実験4:社会的促進と抑制③ー結果の整理とレポート準備 テキストの第14章を読んでおくこと レポート執筆に必要な準備をしておくこと
29 回	学習内容 予習 復習	実験4:社会的促進と抑制④ーレポート作成 テキストの第14章を読んでおくこと レポートを作成すること
30 回	学習内容 予習 復習	実験4のレポート講評 自分で書いたレポートを見直しておくこと 講評内容をふまえてレポートの修正を行うこと

科目名	現代の科学				科目コード	OC101	
英 文 名	Contemporary Sciences				科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	佐久間 直人		教員コード	148		単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日・1時限		授業形態	講義	
学位授与方針 との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	科学という言葉や科学技術は日常において触れる機会が多く、特に大学という場所では非常に重要である。しかし、科学とは何か、科学的とはどのようなことか、科学の重要性と問題点は何かと問われれば、答えられる人は少ない。本科目では、現代を代表する新しい科学的トピックをいくつか紹介する。特に現代社会においては科学と切り離すことのできない倫理の問題を中心に、科学の意味や在り方を議論していく。						
授業の狙い・ 到達目標	現代の科学を代表するいくつかのトピックスについて説明できるようになる。特に、学術的・社会的価値と倫理のバランスについて自分の見解を持つことができる。						
授業内容の レベル・関連科目	入門的な科目であるため、特別な予備知識は必要としない。統計学や心理学に関する科目の履修へ向けての準備としてほしい。						
授業外学習 (予習・復習)	インターネットやテレビ等でサイエンスというカテゴリのニュースやコラムを定期的に見ることを推奨する。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	指定しない。適宜資料を配布する。						
参考書・ その他教材	特になし。						
課題に対する フィードバック	授業で課した小レポートについては添削の上返却し、授業で全体の講評を行う。						
成績評価方法	期末レポート(60%)、授業内の課題(30%)、授業への貢献度(10%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	到達目標に対して学習がどのくらい進んだかについて、本学の学業成績判定に関する規程の基準に従って評価する。						
履修上の 注意事項や 学習上の助言	講義中の私語は慎むこと。許可を得ずに突然撮影することは禁止する。						
科目に関連した 教員の実務経験	特になし。						
担当教員への 連絡方法	授業の前後に教員に直接声をかけると、最も早い対応が期待できる。 質問はメールでも受け付ける。(sakuma@aikoku-u.org)						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション:授業のガイダンス、本科目の概要説明 シラバスを読んでおく。 シラバスをしっかりと読み直しておく。
2 回	学習内容 予習 復習	科学とは何か、科学の分類方法から学ぶ 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
3 回	学習内容 予習 復習	科学的である、科学的に示されるとはどのような意味か 高校までの数学の「確率」について最低限のおさらいをしておく。 第2回、第3回の内容から「科学とは」という説明ができるようにする。
4 回	学習内容 予習 復習	科学の新しい話題 科学系のニュースをチェックし、気になった内容をメモしておく。 授業で紹介されたトピックから1つ選び、ニュースを調べる。
5 回	学習内容 予習 復習	科学と倫理 調べた科学系のニュースについてまとめておく。 自分が選んだ科学のトピックにはどのような倫理的問題が関わるかを考える。
6 回	学習内容 予習 復習	心理学① 心理学とは何か、現代に至る歴史 「心理学」や「心」とは何かについて、自分の考えを言語しておく。 授業で学んだ「心理学」や「心」の定義と、授業前の自分の考えを比較する。
7 回	学習内容 予習 復習	心理学② 心理学と倫理 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
8 回	学習内容 予習 復習	人工知能① AIとは何か 「人工知能」とは何かについて、自分の考えを言語しておく。 授業で学んだ「人工知能」と、授業前の自分の考えを比較する。
9 回	学習内容 予習 復習	人工知能② AIの問題点と向き合い方 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
10 回	学習内容 予習 復習	再生医療研究・クローン技術 「再生医療」について知っていることを、自分なりに言語しておく。 ポイントをノートにまとめる。
11 回	学習内容 予習 復習	数字のトリック データとの向き合い方 グラフなど何らかのデータを基に主張している資料(広告など含む)を探しておく。 授業で扱った誤ったデータの収集や処理に関する身近な例を見つける。
12 回	学習内容 予習 復習	科学者・研究と倫理 学者が起こした問題・事件について何か1つ探しておく。 ポイントをノートにまとめる。
13 回	学習内容 予習 復習	疑似科学に注意する 書店やインターネットで心理学関連の書籍のタイトル等をチェックしてみる。 身近にある「皆が信じている疑似科学」の例を見つける。
14 回	学習内容 予習 復習	科学的な姿勢を育む 第2回、第3回の資料とノートをよく見直しておく。 授業の内容を今後の大学生活にどのように活かせるか考える。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめと復習 これまでまとめたノートをよく見直しておく。 試験の準備をする。

科 目 名	食文化論			科目コード	SC225	
英 文 名	Food Cultures			科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	市川 遥夏		教員コード	134	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日/4時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	日本とアジアの食文化、特に日本の食文化を位置づけたうえ米、酒、麺、茶、コーヒーなど食べ物の視点から見た各国食文化の特徴を考察する。					
授業の狙い・ 到達目標	アジアにおける国民の健康づくりのためにバランスを整った食生活を理解できるようになる。 アジアの地域ごとの食文化の特徴および各国の食文化の形成から、日本食への影響を思考することができる。					
授業内容の レベル・関連科目	日本とアジアの各国の食文化の特徴およびその違いについて理解を深め、各国の食に関する知恵を日常生活に活かせること。人間文化演習(生活科学分野)を履修予定の学生は、この授業を学習することが望ましい。					
授業外学習 (予習・復習)	毎回、授業計画や教員からの指示をよく確認し、予習に取り組む。授業後、各回の講義内容を十分に復習し、専門用語や内容について自主的に調べ、理解を深める。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教科書を使用せず、資料を配布。					
参考書・ その他教材	岡田哲編『食の文化を知る事典』東京堂 石毛直道著『世界の食べ物』講談社					
課題に対する フィードバック	課題に対してその場でフィードバックを行う。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。					
成績評価方法	発表・レポート(70%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。不明な点は講義終了後に担当教員に質問する。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(ichikawa@aikoku-u.org)					

1 回	学習内容 予習 復習	授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ。 シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておくこと。 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深めること。
2 回	学習内容 予習 復習	日本の伝統的食文化としての和食について学ぶ。 和食の食材について調べること。 授業プリントを用いて食文化としての和食について振り返り、理解を深めること。
3 回	学習内容 予習 復習	和食の特徴について学ぶ。 一汁三菜について調べること。 授業プリントを用いて和食の特徴について振り返り、理解を深めること。
4 回	学習内容 予習 復習	日本人の味覚と嗜好について学ぶ。 日本人が好きな主食、おかずについて調べること。 授業プリントを用いて日本の日常食事の特徴について振り返り、理解を深めること。
5 回	学習内容 予習 復習	栄養面から見た日本型食生活的特質について学ぶ。 ニュートリゲノミクスについて調べること。 授業プリントを用いて日本型食生活について振り返り、理解を深めること。
6 回	学習内容 予習 復習	京の食文化について学ぶ。 日本料理の五体系について調べること。 授業プリントを用いて京の食文化について振り返り、理解を深めること。
7 回	学習内容 予習 復習	日本の行事と食文化について学ぶ。 日本の年中行事・節句について調べること。 授業プリントを用いて日本行事食について振り返り、理解を深めること。
8 回	学習内容 予習 復習	アジア食文化、中国、韓国、モンゴルの食材、料理および栄養について学ぶ。 中国、韓国、モンゴルの食材の特徴について調べること。 授業プリントを用いて各国の料理および栄養のバランスについて振り返り、理解を深めること。
9 回	学習内容 予習 復習	アジア食文化、ベトナム、タイ、カンボジアの食材、料理および栄養について学ぶ。 ベトナム、タイ、カンボジアの食材の特徴について調べること。 授業プリントを用いて各国の料理および栄養のバランスについて振り返り、理解を深めること。
10 回	学習内容 予習 復習	アジア食文化、インド、スリランカ、ネパールの食材、料理および栄養について学ぶ。 インド、スリランカ、ネパール料理の食材の特徴について調べること。 授業プリントを用いて各国の料理および栄養のバランスについて振り返り、理解を深めること。
11 回	学習内容 予習 復習	嗜好品の文化、アジアのアルコール飲料について学ぶ。 酒の種類について調べること。 授業プリントを用いてアジアのアルコール飲料について振り返り、理解を深めること。
12 回	学習内容 予習 復習	嗜好品の文化、アジアの茶とコーヒーについて学ぶ。 自国の茶とコーヒーについて調べること。 授業プリントを用いて各国の茶およびコーヒーの特徴について振り返り、理解を深めること。
13 回	学習内容 予習 復習	微生物を利用する知恵、発酵食品の不思議について学ぶ。 発酵食品の種類について調べること。 授業プリントを用いて発酵食品の機能について振り返り、理解を深めること。
14 回	学習内容 予習 復習	微生物を利用する知恵、アジアの発酵食品について学ぶ。 自国の発酵食品について調べること。 授業プリントを用いてアジアの発酵食品の特徴について振り返り、理解を深めること。
15 回	学習内容 予習 復習	課題発表、これまでの内容を振り返る。 今までの授業内容について見直し、復習をしてくること。 授業内容について理解を深めること。

科目名	食品機能学			科目コード	SA208	
英 文 名	Food and Function			科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(必修)	
担当教員	市川 遥夏		教員コード	134	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日/4時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	食品の一次機能(栄養性)、二次機能(嗜好性)、三次機能(生体調節機能)について解説し、特に生体調節機能にかかわる食品、食品成分、その効果およびその作用機序などについて説明する。					
授業の狙い・到達目標	食品成分の働き、生体との相互作用、食品に含まれる成分による疾病予防作用を理解できるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	食に関心を持ち、食品科学の専門的な知識を学ぶ。人間文化演習(心理・生活専攻)を履修予定の学生は、なるべく2年次までに単位を修得しておくことが望ましい。					
授業外学習(予習・復習)	毎回、教員からの指示をよく確認し、予習に取り組む。授業後、各回講義内容を十分に復習し、ノートにまとめること。また、毎回の授業内容に対応した練習問題に取り組むこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教科書を使用せず、資料を配布。					
参考書・その他教材	森田英利・田辺創一 『食品機能学』 第2版 三共出版					
課題に対するフィードバック	課題に対してその場でフィードバックを行う。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。					
成績評価方法	発表・レポート(70%)、小テスト(30%)で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	自主的に学修すること。不明な点は講義終了後に担当教員に質問する。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(ichikawa@aikoku-u.org)					

授業スケジュール

食品機能学

1 回	学習内容 予習 復習	授業の目的と内容、授業の進め方、食品の3機能について学ぶ。 シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
2 回	学習内容 予習 復習	食品の一次機能(水、タンパク質)について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
3 回	学習内容 予習 復習	食品の一次機能(糖質、脂質)について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
4 回	学習内容 予習 復習	食品の微量栄養素の機能について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
5 回	学習内容 予習 復習	食品の二次機能(味、香り、色)について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
6 回	学習内容 予習 復習	ミネラルの吸収と代謝改善に関する成分について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
7 回	学習内容 予習 復習	腸内環境の調節に関する成分について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
8 回	学習内容 予習 復習	骨の健康・骨粗鬆症予防に関する成分について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
9 回	学習内容 予習 復習	歯の健康・う蝕予防に関する成分について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
10 回	学習内容 予習 復習	抗疲労効果に関する成分について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
11 回	学習内容 予習 復習	活性酸素と抗酸化物質に関する成分について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
12 回	学習内容 予習 復習	高血圧と降圧作用に関する成分について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
13 回	学習内容 予習 復習	抗肥満および予防改善に関する成分について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
14 回	学習内容 予習 復習	機能性食品の制度について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
15 回	学習内容 予習 復習	課題発表、これまでの内容を振り返る。 今までの授業内容について見直し、復習をしてくること。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。

科目名	食品衛生学			科目コード	SA209	
英 文 名	Food Hygiene			科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	市川 遥夏		教員コード	134	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日/3時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	食品の安全、食品衛生法と関連法規および食中毒・食品媒介感染症・食品添加物・食品汚染物質などについて学ぶ。それに関する多くの事例を挙げながら解説する。					
授業の狙い・到達目標	多くの食品は世界の各地から輸入され、人々に多彩多様な食生活をもたらすことが理解し、健康の維持・増進、疾病の予防に関する食品、食物及び栄養の知識を身につけることができる。					
授業内容のレベル・関連科目	食の安全・安心の問題に対応できる食品の安全性に関する深い知識や考え方を習得する。					
授業外学習(予習・復習)	毎回、教員からの指示をよく確認し、予習に取り組む。授業後、各回講義内容を十分に復習し、毎回練習問題に取り組むこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	川添禎浩『新版 食品衛生学』化学同人					
参考書・その他教材	特になし					
課題に対するフィードバック	課題に対してその場でフィードバックを行う。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。					
成績評価方法	発表・レポート(70%)、小テスト(30%)で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	テキストは必ず用意すること。 主体的に学習に取り組むこと。不明な点は講義終了後に担当教員に質問する。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(ichikawa@aikoku-u.org)					

授業スケジュール

食品衛生学

1 回	学習内容 予習 復習	授業の目的と内容、授業の進め方、食品の安全などについて学ぶ。 シラバスを熟読し、授業の概要について理解しておく。 授業内容について振り返り、理解を深めること。
2 回	学習内容 予習 復習	食品の安全、食品衛生法と関連法規などについて学ぶ。 教科書の第2章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。
3 回	学習内容 予習 復習	細菌性食中毒について学ぶ。 教科書の第3章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。
4 回	学習内容 予習 復習	食品媒介感染症について学ぶ。 教科書の第4章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。第2～4回の諸課題をレポートにまとめる。
5 回	学習内容 予習 復習	動物性自然毒食中毒について学ぶ。 教科書の第5章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。
6 回	学習内容 予習 復習	植物性自然毒食中毒について学ぶ。 教科書の第6章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。
7 回	学習内容 予習 復習	化学性食中毒について学ぶ。 教科書の第7章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。第5～7回の諸課題をレポートにまとめる。
8 回	学習内容 予習 復習	課題発表。前半のまとめ。第1回～第7回までの講義をおさらいする。 第1～7回の講義内容を復習しておくこと。 第1～7回の授業内容について振り返り、間違った問題について解きなおすこと。
9 回	学習内容 予習 復習	真菌中毒症について学ぶ。 教科書の第8章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。
10 回	学習内容 予習 復習	食品の変質について学ぶ。 教科書の第9章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。
11 回	学習内容 予習 復習	食品添加物について学ぶ。 教科書の第10章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。第9～11回の諸課題をレポートにまとめる。
12 回	学習内容 予習 復習	食品の器具・容器包装、異物、衛生動物について学ぶ。 教科書の第11章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。
13 回	学習内容 予習 復習	食品汚染物質について学ぶ。 教科書の第12章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。
14 回	学習内容 予習 復習	食品の毒性学について学ぶ。 教科書の第13章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。第12～14回の諸課題をレポートにまとめる。
15 回	学習内容 予習 復習	課題発表、これまでの内容を振り返る。 今までの授業内容について見直し、復習をしてくること。 全15回授業内容について振り返り、諸課題をレポートにまとめる。

科目名	介護・児童福祉論			科目コード	SC227	
英 文 名	Care and Child Welfare			科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	鈴木 智子		教員コード	164	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・1時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	この授業では、前半に、高齢者や障がい者が、その人らしい人生を過ごすための介護について、後半では、子ども(児童)の権利や、児童と家庭の福祉について学ぶ。高齢者、障がい者、子どもを巡る社会問題を確認し、様々な制度、地域との連携も含め多角的に考える。					
授業の狙い・ 到達目標	到達目標①:高齢者・障がい(児)者・児童に関する現状や課題について説明ができる。 到達目標②:介護福祉・児童福祉の理念やサービスについて、説明ができる。 到達目標③:対象者の生活の質(QOL)を高める援助の事例について、説明ができる。					
授業内容の レベル・関連科目	介護・児童福祉は、自分や家族、友人や地域の人々が生活していくうえで、身近な問題である。ふだんの生活を通じて、福祉に関心を持ち、自分の意見をまとめておくことが大事である。					
授業外学習 (予習・復習)	事前学習:住んでいる自治体のホームページ、市区町村の広報などを読み、介護福祉・障がい福祉・児童福祉の情報を得る。ニュースに関心を持ち、専門用語(キーワード)を調べる。 事後学習:授業で学んだことを復習して、次の授業に備える。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	毎回、資料を配布する。					
参考書・ その他教材	川村匡由 編著『介護福祉論：その理論から技術、実践まで(シリーズ21世紀の社会福祉8)』ミネルヴァ書房／介護福祉教育研究会編著『新版 楽しく学ぶ介護過程』久美株式会社／浅井春夫編著『シードブック子ども家庭福祉(第3版)』建帛社					
課題に対する フィードバック	提出されたレポートは、良い点や注意点などについて、コメントを記入して返却をする。 最終時に振り返りの時間を設け、全体に対するフィードバックを行う。					
成績評価方法	定期試験(40%)、レポート・課題(30%)、授業中の発言・意見・発表内容(30%)から総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	グループワークを実施するため、事前学習をして自分の意見を述べるようにする。一部で体験型の授業を行う。					
科目に関連した 教員の実務経験	○県・市町での児童福祉事務・市での障害福祉課管理職業務(経験) ○児童相談所・保健福祉総合相談・家庭児童相談室・地域包括支援センターでソーシャルワーカーとしての実践(経験) 特に実務経験で得た知識に基づく授業内容は★印を付して下線を引いている。					
担当教員への 連絡方法	質問はメールでも受け付ける(mail to:suzukit@aikoku-u.org) 件名に科目名、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

授業スケジュール

介護・児童福祉論

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション・「介護福祉」「児童福祉」とは何かを事例を通じてイメージする。 シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておく。 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深める。
2 回	学習内容 予習 復習	介護を必要とする人とは・日常生活自立度・認知症の基準 介護とは何か、介護が必要な人とはどのような人かを考えておく。 授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
3 回	学習内容 予習 復習	高齢者の暮らしや思いを知るシートの記入体験・自己決定、自立支援、ノーマライゼーションの理念 自分の1日の過ごし方を振り返りながら、介護の必要な高齢者の暮らしを考えてみる。 シートを完成させる。授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
4 回	学習内容 予習 復習	★介護保険制度・在宅や施設のサービスの内容や費用・サービスの担い手 住んでいる市区町村のホームページなどから、介護保険について調べておく。 授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
5 回	学習内容 予習 復習	★「2025年問題」と地域包括ケアシステム 高齢者分野での「2025年問題」とは何かを調べておく。 授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
6 回	学習内容 予習 復習	★障がい者の現状や課題 障がいの種類にはどのようなものがあるか、どのような課題があるのかを調べておく。 授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
7 回	学習内容 予習 復習	★障がい者総合支援法に基づく制度・サービスの内容や費用 障がいのある人が抱える問題と障がい者の自立支援について調べておく。 授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
8 回	学習内容 予習 復習	高齢者・障がい者の困りごとや介護技法の基本(体験) 高齢になると、身体のどんな機能が低下していくのかを調べておく。 介護福祉や体験型学習で学んだ感想について、レポートと共に提出をすること。
9 回	学習内容 予習 復習	児童(子ども)や家庭をめぐる現状・課題①家族の多様化(ひとり親等)・子どもの貧困 新聞記事やニュースなどで話題となっている、子どもや家庭をめぐる問題について調べる。 授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
10 回	学習内容 予習 復習	★児童(子ども)や家庭をめぐる現状・課題②児童虐待・家庭内でのDV 新聞記事やニュースなどで話題となっている、子どもや家庭をめぐる問題について調べる。 授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
11 回	学習内容 予習 復習	日本や世界の児童福祉の現状・子どもの権利 子どもの権利条約について調べてみる。 授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
12 回	学習内容 予習 復習	★児童(子ども)や家庭を支援するためのサービス(各種手当・認定こども園・こども家庭センター) 住んでいる市区町村のホームページなどから、児童のためのサービスについて調べておく。 授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
13 回	学習内容 予習 復習	★児童(子ども)や家庭を支援するための機関や施設等(児童相談所・児童養護施設・里親) 「社会的養護」という言葉の意味と支援の内容を調べておく。 授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
14 回	学習内容 予習 復習	介護福祉や児童福祉を支える仕事と職種間連携、地域との結びつき(体験談) 社会福祉関連の職種について調べておく。 授業内容について振り返り、要点をまとめておく。
15 回	学習内容 予習 復習	授業の振り返り 高齢者、障がい(児)者、子どもなど支援が必要な人に今後どのように関わっていくか考えてくること。 全15回の授業を振り返り、関心のある問題についての諸課題をとりまとめてレポートを提出すること。

科 目 名	障がい者コミュニケーション			科目コード	SC226	
英 文 名	Communication for people with disabilities			科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	小川 雅夫		教員コード	257	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日・3時限		授業形態	講義・演習
学位授与方針 との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	先天性、後天性も含め誰しものが関係しうる「障害」に対し、その状況に陥った人とどのようにコミュニケーションを行っていくべきかを、視覚・聴覚障害者のコミュニケーション手段の理解を通して探る。手話、指文字、点字、白杖使用の理解のための演習を行う。					
授業の狙い・ 到達目標	・日本語獲得を前提とした様々なコミュニケーション手段があることを知る。 ・母語(生まれてすぐに身につけた言語)としての手話等のコミュニケーションを知る。 ・個々の言語獲得が様々な障害種、人種を越えた文化の理解に繋がっていることを知る。 ・手話、点字、白杖等を実際に使うことを通し、日常生活における障害者への理解を深める。					
授業内容の レベル・関連科目	手話、点字等のコミュニケーション手段を知ることによって「障害」についての考えを深める。言語学と関連のある内容を含む。また演習として手話を使った会話などを行い、手話表現の合理性、便利性、さらにはその限界を知る。関連科目としては日本語学概論ⅠⅡ、比較文化論Ⅱがあげられる。					
授業外学習 (予習・復習)	授業内に課題を提示し、授業後半に課題をこなすことで復習、確認とする。また合わせて次回に取り上げる内容で、調べておくべき事柄を伝える。課題については次回の初めに解答と確認を行う。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	各回の内容について当日に印刷物として配布する。					
参考書・ その他教材	視覚・聴覚障害者の教育支援 小川雅夫・松崎美保子・井口次郎共著(淑徳大学) 聴覚障害者の心理 中野善達・吉野公喜共著(田研出版)					
課題に対する フィードバック	授業内に課題を提示し、授業後半に課題をこなすことで復習、確認とする。次回の初めに前回の課題を取り上げ、解答と確認を行う。最終授業で全体のまとめを行う。					
成績評価方法	提出課題(40%)、毎回の課題(30%)、発言・意見・演習(30%)から総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	障害者への理解に関心を深めるとともに、主体的なコミュニケーション活動を通じて、障害者の社会参加に寄与する。					
科目に関連した 教員の実務経験	県立聾学校教員として勤務していたほか、県総合教育センターで聴覚障害者と対応する業務に携わる。大学非常勤講師で聴覚障害者の心理および教育論を担当。 公立施設(県立、市立)において言語聴覚士として聴覚障害相談および障害判定業務を担当。					
担当教員への 連絡方法	個人メールで対応する					

授業スケジュール

障がい者コミュニケーション

1 回	学習内容 予習 復習	知らない言葉による説明でも「状況」が理解できることに、「母語」の獲得が関連することを理解する。 字幕のない外国映画や音声のないアニメーションを見て理解できるかを体験する。 状況理解に言語がか関わっていることを確認する。
2 回	学習内容 予習 復習	様々なコミュニケーション手段を紹介する。併せて簡単な使い方を知る。 手話や点字の特徴、使い方を学習しておく。 指文字を練習する。簡単な「手話」で会話ができるようにする。
3 回	学習内容 予習 復習	聴覚障害教育の歴史とコミュニケーション手段について知る。 過去、あるいは戦時、貧困状況で障害者が社会でどのような状況に陥っていたかを考える。 障害者の社会における厳しい時代があったこと、現在もあることを理解する。
4 回	学習内容 予習 復習	聾者の手話言語と聴者の会話言語の根本的な違いを知る。 様々なサイン言語、暗号、隠語について調べておく。 日本語と日本手話の違いを確認する。
5 回	学習内容 予習 復習	会話言語(一次言語)と書記言語(二次言語)の違い、書記言語獲得の必要性について考える。 聞いて理解することと書かれているものを理解することの違いを考える。 多くの学問が文化・歴史教育であること、記述は書記言語で記されていることを理解する。
6 回	学習内容 予習 復習	二次言語獲得の時期について自分の経験を振り返って考える。 本を読んで夢中になったのはいつ頃だったのかを各自思い出し、そのときの状況を考える。 一次言語理解から二次言語理解に至る状況を理解する。
7 回	学習内容 予習 復習	手話も言語であるが、状況をすべて伝えることができる万能ではなことを理解する。 手話の歴史を学習しておく。 日本手話と日本語手話の違いを理解する。
8 回	学習内容 予習 復習	日本語言語が状況依存(コンテキスト)の高い言語であることを知る。 状況を説明するために、直接的に言う以外に、別の表現を使って説明する状況を考える。 手話が直接的な表現をする言語であることを理解する。
9 回	学習内容 予習 復習	同じ聴覚障害でも、聞こえ方が個々により大きく異なることをオーディオグラムを通して知る。 聞こえの程度がどのようなものかを調べておく。 障害の程度の違いが、本人の獲得する言語および発声に大きく関係があることを理解する。
10 回	学習内容 予習 復習	人工内耳を選択する状況、人工内耳の現状を理解する。 人工内耳の仕組みについて調べておく。 人工内耳の手術が、本人の第一言語として音声言語を選ぶことにつながることを理解する。
11 回	学習内容 予習 復習	点字、白杖が視覚障害者のコミュニケーション活動に必要であることを理解する。 白杖が法律でどのような扱いとされているのかを調べる。 視覚障害者の生活を点字と白杖の利用から考えてみる。
12 回	学習内容 予習 復習	点字や点字ブロックが身の回りに存在し、意味を示している事を実際に街を歩いて知る。 街に存在する視覚障害者の移動を妨げるもの、安全を脅かすものを調べておく。 点字や点字ブロックを日常の中で意識してみる。
13 回	学習内容 予習 復習	視覚障害者への手引きの仕方を理解し、実際に行い確認する。 視覚障害者が移動するにあたり困ることを調べておく。 視覚障害者が歩きやすい環境を意識して、街の様子を確認する。
14 回	学習内容 予習 復習	点字の仕組みについてについて知り、実際に点字を点字版で打って理解を深める。 身の回りにある点字を見つける。 身の回りに記載されている点字を読み、どのように記載されているかを知る。
15 回	学習内容 予習 復習	視覚聴覚ダブル障害の人、コミュニケーションが難しい人への対応について理解する。 手話、点字、白杖、文字盤を使うことが必要とする人を想像し、自分として何をすべきかを考える。 障害者とともに生活するより良い日本社会の創造に寄与する。